

1. 実況上の着目点

- ① 前線が千島の東から東北地方を通り、日本海にのびている。前線に向かって下層暖湿気が流入し、前線近傍や暖域側では大気の状態が不安定となっている所があり、局地的に激しい雨を解析。
- ② 日本海西部には500hPaで-6℃以下の寒気を伴ったトラフがあつて東進。
- ③ 南西諸島付近には300hPaで-30℃以下の寒気を伴った寒冷渦があつて西進。また、日本の南には低圧部があつてゆっくりと北北西進。上空寒気と低圧部周辺の下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となっており、南西諸島の海上では局地的に猛烈な雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、9日にかけて東北地方から東日本に南下する。前線に向かって太平洋高気圧の縁を回る下層暖湿気が流入し、1項②のトラフに伴う上空寒気や日射による昇温の影響が加わるため、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。東北地方～東日本では9日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ② 西日本では、太平洋高気圧を回る下層暖湿気が流入し、日射による昇温の影響も加わるため、大気の状態が不安定となる。西日本では8日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ③ 1項③の寒冷渦は、9日にかけて先島諸島から台湾付近に、低圧部は10日にかけて日本の南から先島諸島付近に進む。南西諸島では、引き続き9日にかけて上空寒気や低圧部周辺の下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。南西諸島では10日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。また、西日本の太平洋側では10日は、低圧部周辺の下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。
- ④ 8日夜から9日朝にかけて、北海道地方付近を500hPaで-15℃以下(平年差で-3℃以下)の寒気を伴ったトラフが通過。対応する地上のシアーラインの影響で、大気の状態が非常に不安定となる。北海道地方では9日にかけて、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ⑤ 9日にかけて、1項③の低圧部と日本海や黄海付近の高気圧との間で、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。九州南部では9日は、南西諸島では9日にかけて、強風や高波に注意。
- ⑥ 東～西日本では9日にかけて高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇して猛暑日となる所がある。熱中症に注意(熱中症警戒アラートを参照)。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ①雨量(06時からの24時間):多い所(100mm以上)はない。
- ②波浪(明日まで):高い所(3m以上)はない。
- ③高潮(明日まで):東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。